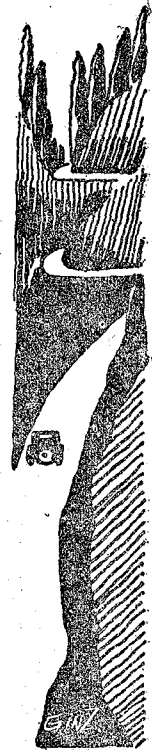


# 批評と紹介



## 都市の苦惱と集中か分散か (三)

藤田宗光

### 三 地方計畫論

#### 一、都市分散論

東京市の京橋區と深川區との連絡點にある隅田川に架橋せる永代橋は市内に架橋せる小橋數百を以て、其の有機的機能を發揮し得ざると同様に宇部市、延岡市等の四、五萬級の百個の都市を以て政治、經濟、文化凡ゆる中心である五百萬都市東京に代用せしむることは不可能である。或は

數百の名も知れない小山を以て我國家を代表する富士山と双肩し得ざると同様である。現在の都市人口集中運動なるものが、現今の如く永久に繼續されるものなれば、都市集中の利が集中の利により失はれるのは當然の歸結である。此處に過大都市の惱みがあり、都市は經濟上に於て大産業の利益や資本の蓄積及び利用食糧供給が、常に豊富であり衛生上に於ても醫學の進歩により、都會の人口の死亡率を減じ市民の健康を増進しつつあるが、これとて都市の適度

に於いてこそ維持されるに過ぎない。

經濟的に恵まれたる土地及び地理的の潛勢力を有する都市に於ては、都市人口集中運動を全然停止することは到底出來ない話である。市町村に於ても人口の數は、自治體の經濟的領域により適度あるべきは疑はない然らば此の分散せしめんとする都市の大きさは、どれ位のものゝ大きさが最も適當であるかと謂へば甚だ困難なる問題である。「ノルマンマツクフアデイン氏は、人口五萬を越ゆるに至れば都市の行政費は急激に増大して其の長所とする所を償ふに由なく、其の下層者の健康は害せられつゝあることは既に世間周知の事であると云ひ、かゝる都市の生活者は、其の保健並に經濟狀態に於て何人も満足し得べき處でない。適度を超えたる都市の膨脹は、社會組織に於て或は經濟組織に於て非能率であること謂ふまでもなく、大都市の膨脹を抑壓し、或は緩和するため、大都市に集中する人口を以て、大都市附近に新都市を建設する議論は有力なるものであつて、都市計畫の一派として、田園都市運動及び地方計畫運

動の旗幟の下に擡頭するに至つたのである。

ハワード氏の「明日の田園」の著は、イギリスに於て田園より都市への人口集中を防ぐ爲に、都市から田園に歸らしめ、理想的田園都市の旗幟の下に、都市と田園とを調和し、農業と工業とを融和する目的を以て、此の一石を投じ都市の分散的傾向に波紋を與へた。

田園都市とは、完全なる工業地域と住居地域とを以て都市區域とし、周圍は公共の所有にかゝる田園又は農業地帯に圍繞せられ、自給の食糧が生産せられ、且十分なる面積を有し、都市の大きさは工業的有機體と社會的機能を營むに足る丈けの大きさを有し、地方自治體に依つて管理せらるゝことを必要とする。

レーモンドアンウィン氏の「田園都市論」は、工業及び健康なる生活を營む程度に計畫せられ、社會的生活を完全に享樂し得るに足るだけの大きさを有し、然も之より大ならず、田園の永久帯を以て圍繞せられ、その土地の全部が、公有地帯若くは自治體に委託せられたる都市である。田園

都市は空漠的に市街地に近接して居る田園を指稱するものでなく、特別な理論を有し都市生活上、衛生的、傳統的、理想都市の現出であらねばならぬ。

田園都市は、交通機關を利用し、大都會から一時間位にして達し得る範圍内にあるべきである。又田園都市は都市に於て難問題とする住宅問題、貧民窟問題、勞働問題、交通輻輳問題も易々と解決し得るものでなければならぬ。然るに大都市の分散的傾向は田園都市運動に於て成功せられない。大都市の過大を防ぐため即ち、母市に於て學校、工場、の擴張を機會に母市の圈内に於けるある聚落へ移轉せしめ此處に小都市を成立せしめる事必要である。大都市の圈内に於ける市街地と小都市の連絡を以て有機的にならしめ交通機關を完了し、小都市に於て國民教育、日常生活上必需品等を土臺にし、又は工業能率を發揮し得る程度となし、其の他の必需品は母市を中心に求める様にしなければならぬ。

## 二、地方計畫論

紹介

地方計畫は大都市の膨脹を否定するものではないが、さりとて無統制なる膨脹を默認するものでもなく、大都市の長短を取捨し特長を益々發揮し、都市の中心を數點有し分散的發達を理想とする計畫にして、要は、圓滿なる大都市發達の計畫であり、完全なる都市への階段である。而して一面亦關連せる地方小都市發達の助成ともなるのである。地方計畫の叫ばれるに至りたるは、極く最近にして、其の原因は近代都市の無制限なる膨脹に基くものにして、過大都市の持つ幾多の缺點を減少し、以て大都市人口集中の緩和を計らんとするものである。

小都市分散論、大都市集中主義に就いても各々區域なるものが存在する。即ち都市の大きさはある限度があるものである。然らば地方計畫の大きさは何によりて決定すべきかと云ふに問題は仲々困難なものである。地理的に、或は經濟的に、或は交通的にある大きさが定まるべきで、一口にして云ふ事は困難である。而して地方計畫區域内に包含せられてゐる住民の協同精神が必要であり、地理的に云へば

市町村を合併せる行政區域となり、平たく云へば從來の都市制度或は府縣制の大きともなり、經濟的に云へば生活のバランスとなり、社會的に云へば共通せる利害の自覺である。

地方計畫の特質は

一、中心が多元的である。

一、都市の集中を目的とせず、調和せる都市の分散である。

中心が多元的なることは地方計畫なる區域の膨大であることを意味する。

大都市主義の如く、一都市を中心とする大都市計畫ではないのである、我國に於ける地方計畫の實例並に趨勢を擧ぐれば

一、超大都市成立の恐ある地方として東京、名古屋、大阪、京都、神戸。

二、大都市數多聯立の傾向ある地方として、北九州。

三、一地方を爲せ共超大都市成立の恐れはないが人口其

の他統制の要ある地方。

四、遊覽關係を併せ考へ統制の要ある地方として湘南地方、伊豆地方。

五、我國最高の聖地として伊勢大廟所在地たる宇治山田の神都計畫。

等である。

東京大地方計畫としては單に東京のみでなく、東京市を中心として關東一帯に及ぶ全區域にして即ち神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬の一府六縣に亘る極めて廣汎なる區域を一定計畫の下に統制し、軍事上の要求をも特に顧慮して、有機的發展を計らんとするものである。

名古屋を中心とする名古屋都市計畫は、區域内に中心を數多とり、一中心に偏在すること無く或る部分は商業、工業、住居と適當に計畫し、各部の利益は同一であるべきである。然して同地を中心とする地方計畫は縣内都市たる、豊橋、瀬戸、一宮、岡崎を初めとし遠く岐阜市を包含し、濃尾一帯に及び南部に計畫されつゝある神都計畫に關連し

施行されるものと見らる。

大阪、京都、神戸を各中心とする近畿地方は、之亦極めて廣汎に亘るものにして、大津、奈良、和歌山を初めとして府縣内の都市、岸和田、堺、尼崎、西宮、明石、姫路を包含するものにして、東京に次ぐ大計畫である。

福岡市を中心とする地方計畫は、過大都市の傾向ある爲ではないが、周圍に數多の都市聯立する爲、地方計畫の必要あるものにして、其の區域は門司、下關、小倉、若松、戸畑、直方、八幡、飯塚の各都市を包含する、北九州一帯にして、我國重要な地として年々發展しつつある。

超大都市の恐れはないが、一地方をなして人口其他統制の要ある地方もあるのであるが、要するに大都市を中心として孤立的に都市計畫を施行しても十分なる目的を達すべからずして、大都市と共にその附近の小都市並に之を圍繞する農村を包含し、統制ある計畫をなしてこそ、完全なる都市計畫否地方計畫が樹立するのである。遊覽關係を含む地方計畫としては、湘南地方並に伊豆地方を擧ぐべきである

が、之等の區域は湘南地方は鎌倉を中心に平塚市、大磯、國府津、小田原、湯河原に及び横濱、横須賀市との交通系統を考慮し樹立さるべきであつて、伊豆地方は前記地方と關連し沼津市を中心に箱根、熱海、伊東、下田其他同地方の名勝地を以て樹立さるべきである。

神都計畫は、帝國日本の最高の聖地として、國民の齋しく尊崇する伊勢神宮の所在地にして、その尊嚴の絶對に侵すべからざる處にして、この大聖地を以て神都計畫を樹立したるものである。

#### 四 都市の方式

##### 一、概論

都市の建設に當りて、先づ居即ち建築物の配置と之に住む人々の動、即ち交通の流れとを合理的に誘導し、最も便利良き都市を構築する爲に如何なる市街方式を設計するかと云ふことは最も重要なことである。

古來色々なる方式が試みられてゐるが、其の主なるもの

は格子狀式であつたが、人口密集と交通機關の發達に伴ひ此の式を以て不備なりとし放射狀式が考案せられ、此方式を採用したる僅かの都市と、幾分部的に用ひられたる都市とがある。次に之等の二方式を述べて其の長短を説かん。

(一) 格子狀式

格子狀式とは直交する二方向のみの道路によりて市街を區劃し、その區劃の集團を云ふ。その區劃の形狀に長方形を爲すものと正方形を爲すものとある。此の方式の特徴を列擧すれば

一、中央部に近づくに従ひ幾分土地の價值を増大する傾向あれど略總ての區劃に對して同等の價值を與へること。

二、區劃の大小或は形狀を適宜に按配するを以て建築物の建築に適する。

三、區劃が凡て直角に劃せらるゝを以て不利用なる土地を生じない。

四、廣場或は公園の面積は割合とり易い。

五、市街が整然としてゐる。

六、町名地番が判り易い

七、道路の方向に於ける連絡は極めて便利である。

短所を擧ぐれば

一、主線街路餘り長くなれば街衢の體裁を單純化する。

二、對角線の方向に於ける連絡が不充分である。

三、風吹く日之を遮るものなく市街を黃塵萬丈の巷に化せしむる。

以上の如き格子狀式は、都市の機能を充分に發揮する上に於て缺點を有するにかゝはらず、洋の東西を問はず良く行はれたる所以のものは、方式が最も簡單であつて十萬内外の程度の都市に對して、道路の幅員さへ充分であれば餘り不便もなく、然も區劃の形狀が凡ゆる建築に最も適せる爲である。

都市人口が益々膨脹して、或限度を超過するに至ると都市の機構が大變化を來し、都心部は單一の状態を保たず分裂を始め、舊來の如き單純なる格子狀式を以ては、大都市

の合理化を期待し得られぬのである。即ち對角線方向に於ける交通系統の不備により、迅速を尊ぶ諸交通機關の效力を減殺し、交通の輻輳と混亂を招き其の缺陷を暴露するに至つた。此の不備を補ふために重要な都心部と郊外とを

連絡する爲、對角線の方向に於ける道路を新設される様になつたことは、時代の一進歩である。然るに都心部一個所に集中することは、道路の集中點に於て交通の混亂を來すを以て、都市の大きさと都心部の位置とを考慮し、都心部を數點に分散する必要がある。對角線方向に道路を設ける時には、多數の三角形の土地を生じ、建築に不適當であるが全面的利益のため局部的の小利を犠牲に供するは、又已むを得ないことである。其の利用更生のため三角形の鏡角點に小廣場を設けて、都市の美觀を益すやうに一考すべきである。小廣場も設備の如何によりて經費僅少ななるにかゝはらず、其の効果と云ふものは驚くべきである。

## (二) 放射狀式

放射狀式とは、一點又は數點の中心から外部に向ひて、

放射的に數條の直線道路を設けて、此放射線の間を環狀道路を以て連絡したるものを稱せらる。

先づ基本的なるものは

一點を中心に六本の放射線と三つの圓に依る環狀線を考へて見るに、何れの區廓も常に扇形狀をなすを以て建築物には不適當である。故に此の缺點を除く爲に放射線の間を直線道路によりて連絡すれば、各區廓は梯形となり更に之を補助的小放射線によりて區廓する時は、多くの梯形に分たれて街角が全く不整となり、建物に不適當である。即ち典型的放射狀式の長所としては、

一、中心點が確然としてゐるが故に中心點の目標が明である。

二、都市の膨脹に對して一大指針を與へ其の發展を統制する都心部は廣場として適當なるを以て都市美觀を増す。

三、格子狀式に比較し變化に富む。

四、都心部と郊外部との交通を明瞭ならしむる。

次に缺點を列擧すれば

一、都心部に行くに従ひて交通量が多くなるが中心點の分散をなし適當なる廣場を設くれば幾分緩和し得られる。

二、各環狀線間の連絡に缺く所あること。

三、區廓の形狀を不適當ならしむ。

四、環狀線方向の識別不明瞭なること。

放射狀式の長所を生かす上に於て、不適當なる扇形或は梯形の區廓を却けて、各放射線の間を長方形の區廓をとるれば建築物の配置も適當に行はる。

## 二、自然形狀都市

自然形狀都市とは、都市の發生以來地勢に應じ、自然の儘成立せる都市を謂ふ。

急激に發達せる都市にして、迂餘曲折せる道路に何等の改造を施さざる市街地或は、地勢の關係上直線的街路を造る能はざるために、不規則なる形狀をなせる土地に發生する。此の形狀の狀徴は、地勢其他自然の環境及び特殊の事

情に支配さるゝものである。

## 三、我國都市の一般方式

格子狀式は、一千有餘年の昔、帝都建設に際し、屢々用ひられたものであつて、平安京の如きは、其の代表的なものである。此の平安京は、桓武天皇が皇居となされてより歴代の帝都として、明治天皇御代に至る迄、皇居を置き給ひし地にして、建都當時は正方形の區廓より成り、後秀吉の手によりて之を不便なりとし、二分して長方形の區廓となせども、尙今に至る迄良く面影を傳へて、人口に喰灸さるゝものである。

此の平安京は、(京都)朱雀大路を中樞にして、左右兩京に分ち、條坊を以て劃せられたる整然たる格子狀式を呈するを以て、一度訪問した人や或は書籍を一度繙いた人の腦裡には深く印象せられてゐる。當時の各大名も之を範として都市建設したる結果、我國の都市の方式は、殆ど全部格子狀式と云つても過言でない。封建時代以後に於て、完全なる發達をなせる諸大名の城下町も、軍事的見地から幾



分の變形を見せて居るが、矢張り立派なる格子狀式であつて、近世に於ける都市の改造或は構築にも多く此の様式を用ひて居る。長方形格子狀式として札幌、和歌山、戸畑、正方形格子狀式として臺中、京都、新義州、名古屋、静岡、甲府、高岡等である。

放射狀式は、交通機關の發達と共に、大都市に於ける交通の圓滑を圖るために、二、三の放射線を入れたる實例はあれど、環狀線を良く備へたる此方式の完全なる都市は、我國として皆無と稱しても良い程で、自然形狀都市下關、大牟田、宇治山田、八幡、直方、銚子、浦和、千葉、尾ノ道、横須賀、佐世保、大連、新京、臺南は此の例である。

我國都市の市街方式は、米國に於ける諸都市の如く、近世殖民都市として一貫せる様式を大膽に且明快に採用して建都せるものとは異り、大部分の都市は、古き慣習と歴史を有し、理論的に都市の構築をなし他の範となるべき市街は少い状態である。

ある時代には幾分整然たる方式を有せし都市も、次の時

代に指導者を失ひ、市街の周邊に沿ひ不規則なる街衢を形成し、之に反し都心部は不規則なる街衢を形成すれども、周邊に沿ふ地域にはその施設を誤らざりしがため、系統的な様式を構成したる市街地も少くないのである。此の現象は、時代の推移と都市の盛衰に依つて相交错し、雜然たる中にも渾然として體系を整備せるものもあり、或は新舊様式の不調和にして、的確に其の街路様式の斷定に苦しむものも少くない。

#### 四、市街方式の設計方針

前述の如く、格子狀式及び放射狀式の長短に就いて論じたるが、格子狀式は建築上より見て、土地利用經濟に卓越せるなら、放射式は、都市統制及交通上より勝り、前者が靜的ならば後者は動的である。従つて人口集中の度甚しからざりし時代に於ては、格子狀式の方式を以て充分事足りたものである。然るに近代都市が、異常なる發達を遂げて其の産業の隆盛と共に益々複雑なる社會を構成し、一方從來の孤立的立場より出て、地方産業の指導者として立つに

至り、漸く單純なる格子狀式のみにては到底充分なる都市統制を保ち得ざるに至つた。従つて格子狀式に對角線方向に、幹線道路を挿入する方法が考案せられて居るが、之を以て直ちに格子狀式の缺點を全部補ひ得るにあらずして、

特に交通統制の方面より考へる時に、放射狀式が一日の進歩があるのである。單一の都心部のみを有する小都市に於ては、格子狀方式が理想であるが、中都市大都市と發展するに従ひて、都心部が分散する傾向甚しく、否分散を合理的に誘導すべきものであつて、かゝる都市に於てこそ放射狀式は最も適當であつて、都市の發展と共に其の主要幹線は放射狀式を採用し、部分的地域には格子狀を用ふべきである。然し乍ら此の事は紙上に於て考へる概念的の事であり實際の道路設計に當りては

- 一、都市各點間の連絡を最も便利ならしむること。
- 二、有效に建築し得る形に道路を設計すること。
- 三、住居の安寧を害せざる如く、即ち地域の分割に留意すること。

四、天然の地形環境を良く利用すること。

等の條件を充分に吟味し、個々の場合に應じて街路の設計を考慮すべきで、前述の如き單一の様式を其儘に踏襲することは全く無意義な事である。

動中靜あり、靜中動あり、夫々の様式の長を採りて、道路を設計して始めて都市は生きて來る。單に道路面積が都市の利用面積に對して大なる割合を占めるのみを以て、都市の優劣を論ずるは早計たるをまぬがれぬ。最も良き効果を擧げ得る道路を設計して其の道路面積の大なる時に初めて誇るべき道路である。

### 五、道路系統

都市は一個の有機體である。従つて個々の建築物は其の細胞であり、道路系統は動脈であり、公園系統は靜脈である、而して都市そのもの、統制をなすべき都心部こそは脈々として波動する心臓部である。

然るに近代都市の如く急激なる商工業の發達、人口集中の結果單一の都心部を以て都市の統制を圖らんとしても過

負荷であり、破綻を來すは然必である。

之に道路、公園及び都心部の分散に就いて考慮する必要が生ずる。即ち都市の發展は自然膨脹に委すべきものにあらずして、時世の要求に準して、確固たる計畫を都市民生活の安住地たらしめねばならぬ。

現在我國に於て計畫されつゝある道路網は、先づ其の第一着手として不取敢行はれたるものであつて、市の大動脈として道路系統を指導するものであり、其の發展を有機的

に導いて文化都市を建設せんが爲である。併し乍ら我國の

現狀が新都建設にあらずして市街地に於て其の改良、救済であり、郊外地に對して其の合理的發展の誘導を使命とするものであつて各都市傳來の歴史を無視して行ふことは全く不可能であり、又然るべきものでもないものであつて、夫々の地勢、從來の街路、或は交通狀態を考慮し道路網を定め、之と並行に公園系統の確立地域の決定と相俟つて初めて完全なる都市發達の指導をなし得るものである。(完)

## 石川縣下志雄村の道路愛護

王 之 波

晚近自動車の加速度的發達と地方道路の不整備とに鑑み地方民衆の公共心を喚起し社會奉仕の美風を作興し勤勞を以て自治の實績に貢獻せんとして各府縣に道路愛護會が組織せられ著々其効果を收めつゝあることは吾人の衷心から

歡喜に堪へざる所である。素より此の如き實質な事業は廣く世間の賞讃を得難きもので其實行は容易ならざる苦心と努力とを要する仕事であるが石川縣羽咋郡志雄村の如き中村長久氏外同志が多年精神を傾注して盡瘁する處があつて